

ミニ懇談会報告書

申込者 しろい梨の会
テーマ 市長の目指される白井市のまちづくりについて
当面する白井市の課題について
日時 令和元年10月24日(木) 午後2時10分～3時50分
場所 白井駅前センター 研修室Ⅱ
出席者 しろい梨の会 23名
市側 市長 秘書課 課長ほか1名
挨拶 市長
ミニ懇談会趣旨説明 秘書課長

【趣旨説明】：秘書課長

本日、しろい梨の会定例会で懇談会を開催していただけたということで、市としては、こういったものをミニ懇談会ということと呼ばせていただいております。ミニ懇談会の趣旨について、若干お話をさせていただきます。

ミニ懇談会は、ある程度の人数のグループと市長が直接意見交換をするもので、いただいたご意見については、今後の市政運営の参考にさせていただこうという趣旨でございます。

ただ、懇談会はあくまで意見交換ということになりますので、この場で直ちに課題や市の方針を決定することではありませんが、何かご意見等ありましたら、後ほど回答するということもできますので、よろしくお願ひしたいと思います。

お時間は、大体1時間30分程度ということで聞いておりますけれども、ご協力をお願ひできればと思います。それでは、よろしくお願ひいたします。

【市長あいさつ・説明】

皆さん、こんにちは。ご無沙汰しております。皆様方には職員時代からいろいろお世話になりました。私、5月22日に、今回無投票で市長に就任をさせていただきました。5カ月が過ぎましたので、市長という役割、責任の重さというものを今痛感しているところでございます。

私については、まず、私が市長選に出たときの資料がお手元にあります。字が小さくて申し訳ないのですが、それを見ていただきたいと思います。あとは座りながらお話をさせていただきたい

と思います。

広報しろい6月1日号で、私が、どういふまちづくりをするかということに掲載した内容です。

まずは、自分の今までの経験を活かして、オール白井というものを掲げております。これは、行政だけで行政運営することは、これからは難しくなっている。これはマンパワー的にも、年々職員数が減ってきております。今後、人口減少、高齢化に伴って予算も減ってくる。そういう中で、今の行政サービスをどのように維持していくのか、さらにはもっと良くしていくのか。このためには、行政だけのマンパワーでは、私は、これからは不可能だというふうに思っております。この中には、市民の皆さんや事業所の皆さん、いろいろな皆さんのお知恵とお力と汗をかいていただいて、みんなでまちづくりをやっていきたいという思いがございます。

そういう中で私は、白井をもっと豊かに、魅力あふれる白井を次世代に残していきたいと思っております。皆さんは、お金もない、人もいないのに無理じゃないかと言う方もいると思いますが、まだまだこの中には、今日来ている皆さんもそうですけれども、非常に経験豊富で知識のある方がたくさん住んでおられます。さらには、この町や地域に対して情熱を持っている方がたくさんおりますので、この方のお力なり、一緒に汗をかいて進めていきたいという思いがございます。

そういう中で、私はそういう町をこれから今このタイミングで構造改革なり、風土改革をしていく時期だと捉えております。これを今やって、次の世代に引き継いでいきたいという思いがございます。

その中で、この広報の原稿の中身に入りますが、具体的には、五つの施策を柱に掲げました。

一つは、もっと子育て教育のまちにしたい。これから高齢化になってきて、子どもたちが減っていく、しかし、これからの宝というのは、子どもたちだと私は思っておりますので、もっと子どもたちが豊かな教育なり、環境を整えて、もっと子どもたちに将来に夢を持てるようなまちづくりを進めていきたいというのが、まず第1点。

そして第2点目が、もっと元気で健康なまち。これは高齢者を意識した施策でございます。高齢者の方が、これから人生100年時代といわれています。こういう中で健康寿命をいかに延ばしていきながら、自分の楽しみ、趣味というものを広めていくか。こういうまちづくりをつくることで、少子化や高齢化に対応していきたいという思いがございます。

3番目には、もっと安全で安心なまちを掲げました。この30年以内に、都市直下型の地震が7割から8割の確率で発生するというふうにいわれております。こういう中で皆さんが一番心配なのは、地震に備えた町をどうつくっていくのか、こういうことをまず掲げました。さらには、今回の台風15号と19号を見てください。今までは考えられなかった台風被害が出てきておりますので、この自然災害にどう対応していくか、これを3番目に掲げました。

4番目には、もっとみどり豊かな快適なまちと掲げております。これは市民の生活アンケートから見ますと、白井市の良さは何ですかと聞きますと、都心から近い割には緑がたくさんあるという、こういうご意見が非常に多くございます。こういう都心からも近い、成田空港からも近い立地条件の中で、農地も含めた自然環境をどう維持していくのか、これを掲げました。

5番目には、もっと健全で行財政運営のまちを掲げました。これから人口が減ってきて税収が減ることは、何もしなければ目に見えてきますので、内容なり構造改革を進めなければいけない。そうしなければ、今の予算配分では、私が考えているような子どもたちや健康づくりにお金が回っていきませんので、最後には構造改革というのを進めていきたいと掲げております。

それが1から5までです。その実現をするためには、冒頭で話をした行政だけの力では限界があります。これからは市民、事業所、行政の力を結集して、そして、みんなでやっていきたい、そのためには市民の皆さんには、まちづくり、地域づくりというものを行政任せではなくて、自分事として捉えて一緒に考えていただきたいという思いがございます。

その次に、現在の白井市の財政状況を言っています。

白井市の財政状況というのは、今現在は、私は健全というふうに理解をしています。データでいいますと、東洋経済社が市町村のランキングを毎年つけております。全国の市町村の中で、今1, 718市町村あります。この中の財政健全化ランキングというのが毎年発表されています。何を視点に基準としているかという、収入、弾力性、財政力、財政基盤と将来負担、この五つの視点から数字でランキングをつけているものがあります。

この中で白井市は、皆さん幾つぐらいにランクされていると思いますか。133位です、全国で133位。では、千葉県内でいいますと13位です。県内で一番いいところは、皆さん御存じの浦安です。浦安が県内で財政健全のランキングが1位となっています。2位が印西市、その次が市川市、成田市というふうな順番になっていまして、白井市は市原市の次の13位というランキングになっています。これは自主財源的なものもありますし、将来の借金も全国から比べると、数字的にはいいという内容になっておりますので、こういうデータだけを見ますと、まだまだ白井市は、財政的には健全というふうに私は理解をしています。

ただし、これから人口減少、高齢化が始まって経常経費の支出率が93%になっておりますから、無駄なお金を使えないという状況に至っているのが現実です。

このように財政というのは、まだまだ他市と比べると健全である、私はそのように捉えています。

しかし、急速な少子高齢化、人口減少、千葉ニュータウンで発展してきました白井市も、今の推計では来年度から人口減少に陥ると、このように推移をしています。今現在が6万3,500人です。人口推計では、来年度は6万5,500を推計しています。しかし、恐らく6万5,500までは今の状況ではいけないのかなと。今の予想では6万5,500をピークに減少に転じると、このように推計が出ております。

そういう中で、どうやってこれからのまちづくり、地域づくりをやっていけばいいのか、そして人口減少に伴って、道路や公共施設のインフラの老朽化があります。これはニュータウン事業ですから、昭和54年の入居開始以来、ほとんどの道路や橋、施設、学校等についても、一斉に整備を進めてきました。これが40年経過していまして、鉄筋コンクリートでいいますと、大体65年ぐらいといわれていますから、そろそろ老朽化で改修や大規模改修を迎える時期に来ていると。

実際に白井市には、公共施設等の総合管理計画という計画をつくっております。これからの施設をどうするかという方向性の計画がありますので、これで見ますと、30年以上経過している建物が6割を占めています。こういうことになりますと、白井市では徐々に施設を造ったわけではありせんから、ある程度まとめて施設を造りましたので、これから建物を維持、改修するためのお金というのが非常にかかってくると、このように思っています。この計画の中で試算をしまして、今の道路や学校や各センター、橋なども含めて、もう一度リニューアルすると40年間で1,030億円かかると推計しています。年平均にしますと28億円がこの改修、維持費にかかってきます。今の財政運営をやっていると、当然全て改修ということはできません。単純に1年間で7億円の財源不足が考えられます。

ですから私は、これからのまちづくり、ニュータウンで発展してきて、人口も増えて、その分施設もいろいろ造ってきました。これが、これからは人口も減ってくる、さらには施設を維持するために、1人当たりの支出が多くなってくる、こういう中で、今、財源がある程度確保されていて、人口が伸びているこの時期に、構造改革なり組織の風土改革をしていきたいというのが、私の一番の考え方です。

これは37年間、この市の職員として、市民参加・協働、さらには行政経営改革、総務課、いろいろな経験をした中で、今から始めていかなければ、この町は今後、お金も人も行き詰まってくるというふうに考えておまして、今回はその構造なり風土を変えていきたいということで、市長選に立候補させていただきました。

そして、そのために一番大事なことは、お金を多く稼ぐこと、これも大事です。しかし、その前にやらなければいけないのは、行財政改革をして余計な支出を減らしていく、まず、これを実施しながら、並行して新しい資源、予算というのを確保していきたいと思っています。そのことを記載してあるのが下の欄です。人口減少などにより地域の絆や、コミュニティが形骸化して、人口減少、高齢化になってくると、一番私がこの37年間で経験したのは、地域コミュニティをどう維持していくかだと思っています。

白井市はコミュニティがあるようで、皆さんどうですか。実際はなかなか横のつながり、縦のつながりというのがどうですか。私は、千葉ニュータウン事業というのは、人が一気に増えてきた分、その分横のつながり、縦のつながりというのが、なかなか熟成していないというふうに感じています。これから、人口減少とか高齢化になっていくときに、もう一度時代にあった地域のつながり、コミュニティというのを再生なり再構築したいと思います。そのことが災害にも強くなりますし、地域の絆というのが深まっていくというふうに思っています。それが下に書いてある部分です。

そして、私の政治姿勢ですが、ここに書いてありますが、私は市民の価値観が多様化している中で、異なる意見にも耳を傾けながら意見を集約して、合意形成のプロセスを大事にしていくことを掲げております。これは、先ほど私の経歴を見ていただきますとわかりますが、市民参加・協働とか、そういう部分でやってきて、これからの地域づくり、まちづくりというのは、いろいろな意見がある、そういう中でも聞く耳を持たなければ前へ進みません。ただし、最終的には決断をしなければいけませ

ん。意見を聞いた中で、市長としての決断はしていきます。ただし、そのプロセスというのは大事にしますということをここに記載しています。市民や職員の皆さんには、知恵を出し合って新たな財源確保にも挑戦していくこととしております。

具体的には、まだまだ白井市には生産緑地等がございます。こういうところを活用しながら、そこに合った企業なり、いろいろな形の誘致というのは、私はまだ可能だと思っています。ただし、土地を持っている人たちの意見等が大事ですから、そこは土地所有者の意向を伺いながら一緒に進めていきたいというふうに思っています。

最後には、冒頭にも言いましたけれども、そういう構造改革を進めて新しい町の形をつくりながら、今よりもよくなった町を次の孫や子の世代に引き継いでいきたいというのが私の願いであります。選挙はありませんでしたが、これが、私が考えている、訴えていきたい内容ですし、これを進めております。

こういう中で、職員にもこのことは庁内LANを使って、あとは冒頭の挨拶にも話をしました。この公約をまず、すぐできるものから着手をしてほしい。さらには令和2年度予算に関係するものは、令和2年度予算で内容を十分審議をして進めてほしい。さらには、もっと壮大な計画になるものでしたら、今これから作ります第5次総合計画の後期基本計画に反映するように指示をしております。

その中で、今現在どういう状況で進んでいるか、話をさせていただきます。実際には、私が掲げる五つの政策の柱があります。

具体的には、もっと1で子育て教育のまち、学校トイレ整備の改修等があります。これについて、現時点で自分が把握している進捗状況、今の現時点で私の把握している内容についても話をします。

もっと学校トイレ整備の改修でございます。これは何かといいますと、学校にはまだ和式のトイレがあります。皆さんの家は、ほとんど洋式ですよ。幼稚園から小学校に入ってくるときに和式という経験をするとすることは、非常に苦しいというような話を聞きますので、なるべく洋式化を進めていきたいと思っております。

この間、千葉日報では、県内平均が、洋式化が45%というような報道がありました。白井市は幾つだと話を聞いたら、62%です。ですから、県内平均を上回っているところです。ただし、できれば私は、全部の学校に洋式化を進めていきたいということで、今回、今年度予算で七次台中学校のトイレ洋式化を進めています。さらには予算がついたということで、池の上小学校のトイレの洋式化も今年度中には契約をしていきたいと思っています。あと残りは桜台小学校です。これも一部については洋式化を今やっていますので、まずは洋式化というのを進めていきたい。

ただし、お金がかかりますので、家庭の洋式にかえるのとは違いますから、配管から全部かえますので、結構お金がかかりますので、この辺は国の補助金なりをうまく使って、それをやっていきたいと思っています。

それと、学童保育と放課後子ども教室の充実ということで、放課後子ども教室というのは教育委員会の所管でやっています。学童保育というのは福祉部がやっていて、これが同じような目的なのです

が、省庁の壁があって、なかなか統合できないということで、私の中だけでは、同じような目的だったら、できれば再編なり一緒になってやっていきたいという願いがございます。これについては、今、第二小学校には学童もありますし、放課後子ども教室もありますので、ここを今、試験的に準備を進めているところであります。子どもたちの視点に立って、余り区別なくいろいろなところに入れるような仕組みをつくっていきたいと思っています。

次が、ICTを活用した教育環境の充実。これは何かといいますと、ICTというのは情報通信技術、要はタブレットとかパソコンです。そういうものを使って自分たちで検索をしたり、いろいろなデータ、情報もそこで見たり、それを使っていろいろな会話ができたり、そういうICTの教育というものを進めて、そういうことが子どもたちの学習意欲なり教育レベルの向上につながるというふうに信じています。

これは文部科学省も進めています。ただし、健康被害もあります。余りスマホ、パソコンとかやりすぎてはいけませんから、そこはきちんと管理をして健康に配慮しながら、そういう機器を使って楽しみながら勉強できる。一方では、学校の先生方も、コピーをしたり板書をする手間を省けますので、そういう機器があれば、今、学校の問題でいわれている長時間労働などの問題に少しは貢献できると考えています。これについても来年度から、普通のパソコン、デスクトップからタブレット方式にかえていこうということで今進めているところでございます。これもお金がかかるので、そこはお金の様子を見ながら進めていきたいと思っております。

そして次が、もっと元気で健康なまち。まず一つ目に掲げているのが、ライフステージに応じた健康づくりです。子どものときは学校に行く、社会人になる、働く、高齢者になっていく、そういう時代に合った健康づくりを進めていきたいという願いがあります。その結果、生活習慣病が予防できるだろうと。生活習慣病というのは皆さんご存知のように、急になるわけではなくて、積み重ねが生活習慣病になりますので、子どものときから、ある程度健康というものを意識した生活を身につけていただきたいという願いがあります。

具体的には、これから策定する第3次白井市健康プランにこういう視点を入れるように今、担当課に話しております。具体的に、この間8月25日には、高校1年生を対象に健康の話をしました。高校時代は、体をつくる一番大事な時期ですので、スポーツをしながら、勉強をしながら、どういうものに注意してほしいかという話をさせていただきました。

その次が、介護予防事業で健康寿命の延伸。今の平均年齢が、男性が81歳、女性が86歳か87歳です。これが今後50年ぐらいますと、100歳に限りなく近づいてくると。そうなってくると何が大事かという、健康寿命、自分で自分のことができる健康寿命をどうやって延ばしていくのか、これが大事だと思っておりますので、これは介護、転んだりしない筋力をつける、こういうような事業というものも進めていきたいと思っております。

そして、下の部分が、高齢者の就労拡充と居場所づくり。人生100年時代、年金の問題もありますが、まだ働く意欲のある人たちは、仕事ができる環境をつくっていききたい。当然、今ある工業団地、

さらにはシルバー人材センター、ほかにもまだあるでしょう。そういう人たちを活用しながら、働く意欲のある人たちには働く場というものを紹介していきたいというふうに思っています。

次が、もっと安全安心なまちでございます。一番初めに、災害に備えた自助・共助・公助の連携強化というのを掲げました。これは冒頭で言いましたが、自然災害、主に大きな地震を想定しています。今、見ていると、非常に自助と共助と公助が、役割が余りはっきりしていない部分がいっぱいあると思います。でも、地震が起きた場合というのは、ほとんどは自助の部分というのは非常に大きいです。まず、自分の身は自分で守る。ですから、普段から生活に必要な必需品というのは、3日以上、1週間は準備をしていく、そういう中で避難所に避難をする。こういう役割を訴えていきたいというふうに私は思っております。全て行政が全部できるかということ、そうではありませんと。自分の命を守るのは、まず自分、そして地域住民の方が避難所まで支えてくる、避難所も地域の人たちで運営していく、こういうことを強く訴えていきたいと思っています。

そういう中で何をしているかといいますと、市のホームページを見ていただきますと、市長のメッセージというのをつくりました。私が気付いていること、何がしたいか市民の方にメッセージを発信しています。今回は台風15号、さらには台風19号について、白井市でどういう被害があったか、どういうことをしているかということをも市民の方にホームページ等で随時出していきたいと思っています。それは9月から開始しました。

あわせて職員の方にも、これは1週間に何回も出しています。自分が気付いたこと、こういうことをやってほしいと、こういうことを職員全員が持っているパソコンで、庁内LANでメッセージを出しています。今回は、10月23日に、市民と事業者はまちづくりのパートナーという題名で、自分が考えていることをメッセージとして伝えました。見ていただくとわかるのですが、こういうことを職員の意欲、意識を変えながら、自分が思っていることを発信していきたい。

中には市長の手紙で、職員の待遇が悪いというのが結構頻繁にありましたので、それについても職員に伝えました。自分が、例えばお店に行ったときに接客が悪ければ、そこだけで気分を悪くするから、そういうふうにわかりやすく職員には市民目線で接客をするように、初めの初動段階でこじれると、大きな問題に発展しますと、職員には自分が考えていること、自分がやってほしいことをメッセージとして出しています。

もっと安全で安心なまちで、2つ目が防犯や防災の地域課題のまちづくり協議会、これは冒頭に言わせてもらったのですが、これからの地域コミュニティのあり方を考えていく必要があるのではないかと考えていまして、それは自治会にしても地区社協にしても、いろいろな既存の団体にしても、役員のみ手がいない、高齢化が進んでいる、新しい会員がいないという、これは自分が37年間やってきて、いろいろなお話を聞きます。ですから、そういう個々の団体が弱体化する中で、どうしたらもっと効率よく強力な仕組みができないかということで、今進めているのがまちづくり協議会であります。これが大門口小学校と第三小学校をモデル地区に進めていまして、自治会や地区社協、PTA、いろいろな一般市民の方が入って行って、新しい地域コミュニティのあり方なり地域課題をどうすべ

きかということ話し合っている最中です。これが全部広がってくれば、それぞれの学区単位でそういう組織、既存の組織をうまくカバーするような仕組みというものをつくっていきたいというふうに思っています。

ただ、これは自分が思うだけなので、地域によっては、それぞれのいろいろな考えがありますから、今言ったように何か新しい取り組み、仕組みをしなければ、既存のいいものもこれから衰退してくるというふうに思っているところであります。

次が、コミュニティ活動の活性化、地域コミュニティの再生。これは先ほどから言っております地域の中でいろいろな人たちが出てこなければいけません。皆さんみたいにコーディネーターができるような人たちがどんどん出てくるのが、地域といろいろな人が繋がっていきますので、このような取り組みも進めていききたいと思っています。

もっとみどり豊かで快適なまち。これは何をイメージしているかといいますと、消費生産の地域循環を促進して、白井市の農業、商業、そういったものを事業展開していきます。端的に言いますと、白井でとれたものは白井で消費したいという願があります。農業者の高齢化も進んでいます。農業者は今、大体60代でも若いといわれていまして、その方が行商に行って、県外、市外に出ているのです。ですから、できれば白井でとれたものは、そのうちに白井で消費できる環境づくりをやりたい。ですから、これは小売店にもお願いをして、白井市の商品を扱ってもらい、または宅配業者にもいろいろお願いしてやっていききたいというふうに思っているところです。

次に行きます。豊かな自然を守り次の世代に残すための事業拡大ということで、これは今いろいろな市民団体があります。NPO法人の谷田武西の原っぱと森の会などと連携、あとは千葉大など大学、産官学の協力を得ながら、どうやってもっと自然というものを身近に感じて啓蒙事業ができるかということを進めていきたい。私は、オール白井の中には産官学も考えています。身近な大学、研究所ともいろいろな知恵を出し合って、場所として白井市を提供しながらいいものをつくっていききたいと思っています。

次が、一番関心がある北総線運賃対策を初め循環バス、民間バス、タクシーなどの交通ネットワークの利便性の向上、これはまちづくりの中で、白井市から違う市に行きたいという要因の中で運賃が高いということが一番大きい要因になっています。この問題については、すぐに解決する特効薬はありませんが、今までのやり方というものを継続しながら、特に、隣の印西市さんとは連携をしながら進めていききたいと思っています。

それと民間バス、循環バスの役割、あとは小回りのきくタクシーの役割、それぞれの役割を決めながら、お互いが補完できるような関係というものをつくっていききたい、そのためのネットワーク会議というのもつくっておりますので、その中で進めていききたいと思っております。

次が、もっと健全な行財政運営のまちでございます。一つが、市役所の仕事を見える化をして事業の見直し改善を図り、行政のスリム化を進めます。ですから、これは事務事業評価をしっかりとやって不要の事業はやめていく、または事業主体を変えていく、行政がやるとどうしてもコストが高い、だ

ったら民間の人をお願いするとか、そういうやり方をしながら事業コストというものも減らしていく必要があるだろうと思っています。

それと、行政組織の再編も考え、行ってまして、自分が総務部長のときに、今ある35課を31課に削減しました。これも時代のニーズに合った課の編成をやっていききたい。なぜやるかといいますと、管理職が多くて部下が少ない。例えば課長が1人、部下が3人、これではなかなか難しいところもありますので、それと管理職が多くなれば、分散化され、横の連携がなかなかできなくなってくる、こういうこともありまして、なるべく組織というものは、横の連携と一定の規模で課長にマネジメントができる数は制御していききたいと思っています。

それと、ただ職員にそういう厳しいことばかりではなくて、今、国がいわれている働き方改革、職員は数が年々減っていますから、その分時間外は増えています。時間外だけでいきますと1億何千万になっていますので、時間外も減らしていききたい、さらには休暇取得というのもそんなにとれない状況がありますから、この辺も改善をしていききたい。

どうするかといいますと、今考えているのは、機械ができるものは機械に任せようと。例えば人がやっていたものが機械でカバーできるもの、電算でいろいろなものに広がっていくものについては、これは機械化が進めていければいいのかなというふうに思っているところです。

あとは、よく言われるのは、Aさんは一生懸命やっているけれどもBさんはやっていない、Cさんはまあまあといった、この辺の組み合わせをみんながある程度一定のレベル、仕事に参加できる、一生懸命できるようなマネジメントというものもこれから進めていききたい。そのためには横断的なプロジェクト、今こういう問題があるから、環境問題があるから今までは環境課だけでやっていたけれども、環境課プラス例えば税務課とか建築課とか、こういうような組み合わせをしながら効率よく問題解決できるようなプロジェクトチームというのを今つくっておりますので、これを活用していききたい。そのためには、まずは職員同士の情報共有を図っていききたいと思っています。

あとは、働き方改革と職員の意識改革と生産性の向上ですから、これについては皆さんに今配っていますけれども、職員に何をしてほしいのか、どう無駄があるのか、こういう無駄な部分というものをどんどん提案をしていただいて、それをやらせてみる。多少、市民に迷惑をかけなければ、やってみて、それが本当は効果があったかどうかということをそういうような仕組みというのをつくっていききたいと思っています。今いろいろな職員から、これはこういうふうにしたほうが良いという提案がありますので、それはぜひ実現をさせていききたいと思っています。

最後にもう1個ありました。市民参加による次世代を見据えた公共施設等の再編の配置。これは何かといいますと、人口が減ってきて、例えば今、白井市の施設というのは、1人当たり2.43平米ぐらいです。これは全部の学校も含めた面積で、1人当たりの数字です。床面積にすると、千葉県平均が2.83ぐらいです。皆さん、白井市はいっぱい施設を持っているといいますけれども、平均だけで見ると、まだ県平均よりは低いです。

ただし調べてみると、一番低いのは我孫子です。我孫子、鎌ヶ谷というのは、あんまりそういう施

設を持っていないです。人口が増えている頃は、分母がどんどん増えますから2.43が、それはどんどん減ってきますよね。2.43が2.0になってくる。これから人口が減ってきますから、2.43が3になったり4になりますので、この辺を考えていきますと、これから全体の面積というのは減らしていかなければいけない。さらに言うと、すぐ減らすことはできませんから、まず10年でもつ施設を15年もたせようと、そういうようなことをやっていきたいと思っています。それを今から始めています。

公共施設マネジメント課では、今現在の施設がどのくらい維持コストがかかっているか、今後どうなるか、どのくらい利用者がいるかということのを全部踏まえて、その利用者なり地域の人たちと話し合いを持っています。それは今すぐやれる話ではありません。

ただ、私が冒頭言ったように、これから10年なり5年、20年先を考えていくときには、こういう議論を始めていないと、すぐにはできないということを私は思っています。必ず利用者からしてみれば、反対ですよ。使っているのに何だと。そういうのがありますから、今から次の時代を見据えて話し合いを持っているところでございます。

以上です。あとは、皆様のご質問にできる限りお答えをしたいと思います。よろしく願います。

【進行】：しろい梨の会

市長からお話がありました。かなり細かい点も含まれていたようですが、皆様のご意見、建設的なご意見、将来白井市をよくする、それから次世代にも結びつくような提案、それで忌憚のないご意見を願います。

【市長】

皆さんとは昔から十分知っていますから、いろいろなご意見等、また私は全部自分が答える、自分が全部わかっているわけではありません。ですから、いろいろな人の知恵を借りて、力を借りたいというふうに素直に言っているわけですから、答えられるものもありますし、わからないこともあります。そこははっきりとお話をさせていただきます。

【しろい梨の会】

口火を切らせていただきます。私が発言するのは、北総鉄道運賃問題ですけれども、市長も気にかけておられて、取り組まなくてはいけないとおっしゃっていただいたので、ほっとしています。

2019年の市民の意識調査というのが、一部出ていますね。この前、タウンミーティングで一部ございましたけれども、その中でも、鉄道運賃が一番緊急で、重要度が高いところになっていたし、2番目が、バスなんかの交通問題というのもあったわけです。ですから、これらはとっても重たい問題だと思うのですけれども、ぜひ、逃げないで取り組んでいただきたいというのが一つ。

それから、これは全般的な話ですけれども、白井市は、自分たちのいいところを外にPRするというのが弱いかなというふうに思っているのです。というのは、例えば桜台の自校給食方式というのは、あれは非常にすぐれていて、子どもの成長にとって大事なものだというふうに一般的にいわれているし、あれがあるから桜台に入ってきたのだという人も結構いるのです。だから、あれは確かにお金の面では負担かもしれないけれども、人を呼び込むという点は、すごいプラスになるということだと思っております。

あと、幾つか気がついた例を上げると、プラネタリウム、図書館、ああいうのは、失礼けれども、白井市のような小さな町ですごく立派な施設を持っていて、近隣のところからプラネタリウムなんかは順番を待っているような状態で見に来ているわけです。

【市長】

ありがとうございました。二つですね。

北総線については、これは冒頭に言いましたけれども、引き続きやっていきたいと思っています。今回の総会では、運賃の改善、特に通学定期の要望をしました。さらにはアクセス特急をできれば市内に停車してほしい、特急、急行についても便数を増やしてほしい、それと情報の発信をもっとやってほしいと話をしました。今後も、白井市の要望は言っていきます。さらに、印西市さんともいろいろ話をしながら、1市だけでは弱い部分もありますから、事務局レベルの活性協を持っていますから、その中でもそういう議論をしていきたいと思っています。

今、北総線の一番の問題は、繰越損失があと数年で恐らくなくなります。その辺の準備も含めて、沿線市と運賃が何とかならないかということも考えていきたいと思っています、それがまず一つ。

二つ目は、白井の魅力というのはおっしゃるとおりで、いろいろなものがあります。これは個人の主観もあるでしょうが、何が一番いいかという、今言われているのは、企業がこの白井、印西に目を向けているのは、立地条件のほかに地盤です。地震に強いという地盤、それと電力の供給量もすごくあると。今回も停電がなかったではないですか。ですから、そういう面では、まだ企業の方とかがこの北総台地に目を向けています。

それと、災害も今回はなかったです、運よく。これはあくまでも台風の位置ですけれども、そういうこともあるので、私はこの白井市、印西も含めて、そういうような売りをどんどん発表していきたい。

今、自分が思っているのは、広域だと思っています。白井市だけがよくなればいいのでは、この沿線は埋没すると思っていますので、佐倉とか成田、印西、白井、鎌ヶ谷とか船橋も含めて、そういうところの良さというものを全部セットで出しながら進めていかなければ、これからの行政運営なり経営はできないと思いますから、その辺もやっていきたいと思っています。

【しろい梨の会】

先ほど市長からお話をいただきまして、ありがとうございました。

それで、ニュータウン計画40年終わって、事業計画は終わったのですが、いろいろ取り残された問題がある。それから、それに伴った派生する諸問題があるのです。基本的にはインフラの問題がある、道路を初め、まだ積み残しがいっぱいあると思う。基幹側は国や県がやるのでしようけれども、それで派生する市の問題がたくさんあると思うのです。それらを踏まえてニュータウン事業と、それに伴ういろいろな諸問題、弊害、それをチェックしていただいて再整備して、これからやれるもの、やれないものの仕分けをしてもらいたいと思うのです。

一つ実例を上げますと、今、西白井の駅前の高層マンション問題でガタガタやっていますけれども、ニュータウン事業で団地をつくって、区分所有法では、棟ごとに決めれば解体して、建て直しもできるということになっているのですが、この地域はできないのです。管理組合全体でやらないと、できないという拘束がかかってしまっているのです、ニュータウン事業で。それが支障を来して、例えばうちの例で言いますと、うちは11階建てです。8階建て、2階建てとかいろいろあるのですが、同じ棟で10棟だの5棟だのというところで、完全に日照権問題になってしまう。では自分たちだけで取り壊そうか、建て直そうかといっても、ここだけではできないのです。全体で決めないとできないという問題があるわけです。そういったニュータウン事業特有な規制がかかっている問題がありまして、これからの白井市は、特に障害になる部分が出てくるのではないかと。白井市も40年間経ったので、市ではないですよ、ニュータウン事業から40年たったので、今言ったように、先ほど言われたように40年、これから先どうするかということです。もう一遍チェックしてもらって、見直していただければと思うのです。

【市長】

全くおっしゃるとおりで、私もニュータウン事業は40年経っていますから、ニュータウンの再生方針というものをこれから考えていかななくてはならないと思っけていまして、多摩ニュータウンを皆さん見てください。多摩ニュータウンは、千葉ニュータウンよりも約10年早く、正確には7、8年先ですけれども、今何が起きているかということ、高齢化の問題、あとニュータウンの再生の問題が起きています。

ですから、私は今後、多摩ニュータウン、千里ニュータウン、そういう事例をいっぱい見ながらニュータウンのあり方をもう一回みんな考えなくてはいけないと思うのです。行政の法律ではできませんので、当然土地を持っている方、家を持っている方も含めてこの問題を、あと開発した千葉県もあるでしょう。いろいろな方たちで事例を見ながら、もう一回20年先のことを考えながら、再生方針というものを考えていく時期に、そろそろ来ているなと思います。以上です。

【しろい梨の会】

非常に私が心配しているのは、先ほど話がありました公共施設の改築とか改修でも、今後40年間に1、130億円かかるということ、そして税金等々も、これから増える方向ならともかく減少して

いく中で、市だけ、市議会等々で議論されている市の支出というのでしょうか、取り組みだけではどうなのかなということをしごく心配しています。

それは、例えばですけれども、先般も15年前ですか、印西クリーンセンターの建て替えというようなことがございましたけれども、あの中での建て替えの論議というのは、非常に信じられないような、とりあえずこの計画でやらせてください、あとはごみが少なくなる場合には調整しますからとか、単なるコンサルの原単位で施設規模が決まるような議論がしごく中心になっておりまして、非常に信じられないような議論があるわけです。

そういったところを当時の議員さんですか、そういう中に入っておられてチェックしておられるはずでございますけれども、お金がかかるのは結局市が分担するわけでございます、そのあたりもこれからもっと首を突っ込んで、もう少し我が身のこととして、よその話で分担金さえ払えばいいのだろうというようなシンプルな話ではなくて、桁が違いますから、何十億というような金でございますので、もっとそこを真剣に自分のこととして、自分のお金として、自分というのは白井市でございますけれども、白井市のお金として、もっと真面目にやってほしいというようなお願いでございます。

【市長】

そこは、組合でやっている話ですね、白井と印西と栄でやっている。自分が5月に来たときには、大筋話は決まっていました。

今、言われたように、これからのかかる経費というのは、印西がやるまちづくりの部分と、本当にごみにかかる部分をきちんとその辺を整理して説明できないと難しいとは思っています。

それと、ただ施設をどんどん壊せばいいかという、そうではないと思うのです。私は今ある施設でもお金を稼げる方法はあるというふうに考えています。例えば、乱暴な言い方ですけども、民間に貸す、要するに空いている時間は、例えば学習塾に貸すとか、そういうことも事例としてやっているところがありますので、ですから少しでも期間を空けないという効率を高めていくという方法もやっていきたい。実際、そういう施設を今調査してやっつけようとしています。

それともう一つは、給食センターの跡地。これを単に売却ではなくて、今、民間企業から提案をもらっています。サウンディング型市場調査というものです。これで今提案をいただいております、民間企業にあの土地で何かお金を稼げる、市にお金があつていろいろな市が持っている課題をクリアできて、民間会社もできるような方法、提案を今もらっている最中です。

ですから、これから土地の利活用、もう要らなくなったから手放すのではなくて、そこでいろいろな地域が持っている雇用の問題だったり保育園の問題だったり、クリアできるような民間が持っている知恵というのは必要なのではないかと考えています。

【しろい梨の会】

先程の一部事務組合のことですかね。それぞれの自治体がある程度コントロールできる、特に財政

の問題ですけれども、今の状況を見ますと、印西クリーンセンターのあそこの内部だけで決められて、専門家がいないのです、各自治体に。だから、その辺のことを十分情報をキャッチしながら、それぞれの自治体が本当に効率的な運営をされているのか、それから無駄なお金を使ってないかどうか、その辺のことをぜひともチェックしていただきたいと思います。

【市長】

おっしゃるとおりで、負担金が大きく、それに印西、白井、栄町も負担が厳しくなりますので。

それと今言ったように、ごみの処理部分と印西の持っている課題をそこで一緒にされては困りますので、その辺は十分内容をチェックしていかなくてはいけない。構成議員も印西が5人なのです。白井が3人、栄が2人なのです。その辺も一つあるのですけれども、今おっしゃったように、これからお金がかかるのは組合のその部分ですから、そこは十分見ていきたいと思っております。

【しろい梨の会】

私は、学習支援のステップというのをやっている栗原と申します。前に市長さんの前でお話しさせてもらったことがあるのですけれども、今日のために資料を用意しまして、写真の一番後ろなのですが、まず1番目は、先ほど市長さんがお話しいただいた5つの柱ということで、どうも学童保育と放課後子ども教室の充実というのは、実は初等教育の件でのお話なのです。小学校の間なのです。

ですけれども、中等教育、つまり中学校、高校については、どうお考えなのか。高校までは市の範疇ではないかもしれませんが、中学校をどうするのか。我々も実は中学生の学習支援をやっているところなので、市長さんのもくろみと我々がやっていることがどうつながるのかと。市長さんのお話は、小学校の件についてのお考えなのです。中学校についてはどうなのかというのが、今日聞きたいことの一つなのですが、大きなところなのですけれども。

その聞きたいことの中身に関して、実はこの3月にこんな冊子が出たのです。白井市子育て支援にかかわるアンケート調査結果報告書。これは実は、手に入れようと思ったら、もうないということで、ホームページを見てダウンロードして、それで関係するところは、2のところ、ずらっと並べました。つまり小学生、中学生の学習支援のそれなりに需要があるという、求められているということが2番目なのです。詳しいことは見ていただくことにしまして、私の説明は省きます。

3番目に書いたのは、実はこの3年間、市の補助金も得ながらボランティア活動で学習支援をやっていましたという話です。そこで問題点も書いたのですが、それも説明は省略します。

4番目に書いたのですけれども、実は学習支援というのは、子どもの貧困対策ということで文科省が言い出した話で、法律が決まって数年経って、各市町村で実際にやっている。ですから、この近隣でもつい最近ですが、印西市も始めた。御存じだと思うのですけれども、今年の7月19日に、印西市が子どもの学習支援事業というので始めているのです。ですから、この近隣でやっていないのは、白井市だけなのです。おわかりですね。

船橋でも柏でも松戸でも鎌ヶ谷でも、近隣全部やっています。いわば最後にといいますか、印西も名乗りを上げて、残りは我々だけなのです。そうすると、白井市に住んでいるがゆえに、他の市では得られている行政サービスが得られない。こういう現実が浮き彫りになってしまったわけです。まだ、この7月までは、印西もあるではないかと、白井だけではないよと言えたのですが、印西も始めたということは、残りは白井だけなのです。この現実、その先どうしますかという、白井はそのままいくのですかという話で。

そこで、我々は補助金をもらいながらやっているのですけれども、今の補助金というのは3年間です。今はもう2回もらっています。もう1回しかないのですけれども、実は来年度に関しては、千葉ニュータウンセンターというのが創立30周年だということで、我々のほうに30周年記念で支援しましょうと。今年授与式をします、お金は来年ですよ。つまり来年は、市の補助金を得なくてもいいのですけれども、ただそこで問題なのは、印西が始めたということで、さあ、うちもということで来年からやろうということを決めると、市がやっている事業と我々がやっている事業と、二本立てで多分行かないと思うのです。何らかの形で一つでやるしかないのだと思うのです。そうすると、来年途中から始められてしまうと、我々の事業とどうやってやるのかという話で、別に市の事業に我々が絡む必要はないのです。一切関係ないのですけれども、いずれにしても、やるならやるで早目に決めてもらわないと、ニュータウンセンターの支援も、来年度から市がやるということですので、そちらのほうに変えますからという形で断らなくてははいけないわけです。

ということがありますので、早目に出処進退というのですか、やるかやらないか、この場ですぐ返事なんてないのは当たり前です。ただ、来年度中にやるのかどうかぐらいは、どこかで早目に意思表示していただかないと、我々も立ち往生してしまうのです。ということがある中で、他のところでやっている学習支援というのを白井市がどういうふうにやろうとしているのかというのを何らかの形でお聞かせ願いたいと、こういうわけです。

【市長】

総論から言いますと、自分の中で、公約の一つをもっと子育て教育のまちにしたのは、子どもたちの教育環境を整えたい。それは小学校でも中学生も同じです。そういう環境の中でまずやっていきたいというのがあります。まず大前提として教育レベルを上げていきたい。

それと今あったように、公の機関というのは、民間ができないことをやらなくてははいけないと思っています。今言われている格差社会、貧困社会、これを基本的には公の機関が取り組むべきだと思っています。個別の話については、今日聞いたので、早く進退を示します。

ただ、基本的には、なぜ公務員がやるかということ、お金もうけではない、社会のいろいろなひずみというものを直していく、その中では他の使い方があります。いろいろな人がいますから、そういう中で説明をしながら、こちらのほうの予算を配分していきたいとは思っています。ただ、何度も言いますが、お金の配分というのは全体が200億と決まっていますから。

【しろい梨の会】

2つほど提案というか、させていただきたいと思うのですが、市民参加推進会議の委員を今3年目でやらせていただいているのですけれども、率直な実感としては、情報公開とか市民参加というのを結構うたい文句に、前の市長さんもされていたのですけれども、実態で評価していると、これは完全にアリバイづくりだなと。本当に市民参加で市民の意見を聞いて取り入れて、政策形成に活かしているという本当のところは完全に抜けているなという感じがする事例が、残念ながらほとんどだという感じがするのです。

だから、これはなかなか難しいことで、情報公開と市民参加を今もおっしゃっていましたが、ちょっと厳しいことを言うと、給食の共同調理場をつくる時も、率直に感じたのは、嘘が結構多かったと。それで情報操作して市民を誘導する、PTAを誘導するというのが相当使われたということ。それから事例としては、私、税金の仕事をやっていたので感じていたのですけれども、市県民税の誤賦課の問題のときなんか、明らかに違うだろうと、本当のところ違うだろうと思うのだけれども、結局それを隠したいがために、シナリオを書いて情報操作しているなというふうに本当に思ったのです。

こういうことができるとすると、議員さんのほうも与党の議員さんが多いから、それでいいではないかという話になる。職員から、税金の問題なんかでもヒアリングしたらどうかという特別委員会まで設置されたけれども、それは職員が萎縮するから、かわいそうだからやめよう。僕はそれでいいと思うのです、やめても。いいと思ったのだけれども、せめて今回起きたことについては、どう考えているのか、どうしたら直るのかとか、率直な意見を聞かせてもらおうと、名前抜きで。そうしたら、それも提出しないわけです、職員の方は。それって結局本当のことを書けないということだと思ったのですけれども、この体質をどうにか、体質というのは直せないのかなと。それはなかなか厳しいところなのだけれども。だから公文書管理条例だとか、いろいろなことも絡んでくるのだけれども、とにかく嘘や隠蔽はやめようというのは、ぜひ徹底していただきたいというのが1点と。

もう1つは、先ほど、職員にやらせてみると、自立性を持って考えてもらうというようなことをおっしゃっていて、私は本当にそのとおりでなと思うのですけれども、共同調理場の建て替えのときなんか委託だらけだったでしょう、基本方針つくるところから。基本方針なんかつくるのは、職員がやるべきなのです、僕が思うには。設計みたいな具体的な専門技術が必要なところは、民間にやらせてもらうことも必要だと思うのだけれども、一々みんな委託、委託で。それを結局、コンサルだとか専門家が参加したところにつくっているのだからということをバックボーンにして、それでみんなを説得していく。その手法をやっている限り、職員も成長しないし、いい結果にならないのではないかという思いが強くて。

1つだけ例を挙げると、これは誰がつくったものかなと、このキャッチコピー、これポスターつくったでしょう。これで白井の宣伝になっているのかなと、これを読んで、本当に一般の人が、市外の人が、白井に住んでみようと思うと思っつくっているのかなと。これも職員が本当につくったのか

な、それとも都市コンサルみたいなどころとか、そういうところに投げたら、結局こういうふうになっちゃったのかなと思うのだけれども、そういうことで、こういうのも含めて職員が考えるのを基本にして、その分野でいろいろ知見のある市民が結構いるわけだから、そういう人たちに協力を得て、広報にしても、いろいろなシティプロモーションにしてもやってもらったらいいのではないかなという思いが非常に強いです。

【市長】

2つですよ。自分の中で37年間やってきて、市民参加・協働というのを一番長くやらせていただいた経験がありますので、徳本さんが言っているように、市民参加の本質が何かということは、自分の中では他の職員よりは熟知しているつもりです。

今度は市長になりましたので、そこは十分チェックをしていきたいと思っていて、今、全てを決める行政経営戦略会議というのがあるのですけれども、その中でも必ず市民参加のことは確認をさせてもらっています。それと、ただ形式だけではなくて、例えばパブコメの時期はいつなのか、これが本当に素案に反映できるのかということもきちんと今はそういうことも中身をチェックさせていただいています。そこは市民参加・協働の部分は、自分が一番、そこでも書いてあるとおりに注意しているところです。

それとあと、今度は、自分の姿勢ですけれども、今おっしゃったように職員をつくるためには、職員がこの町のことをよく知っていて、それがどういう方向になっていくかを考えなければいけない。そのためには、基本計画というのは本来職員がつくるべきだと思います。ただ、調査ものとか専門性のものについては委託をする、アンケートなんかも委託をする。けれども中身、課題、方向性については、自分たちが意見を出すことが大事だと思っています。

ただ、職員に言わせると、なかなかそれだけの能力がないというのが一つあるのと、数が少なくできませんというのがありますので、ただやれるものから、自前で勉強しながら、そんな見てくれはよくなくていいと思うのです。何十枚もつくるのではなく、四、五枚でもいいし、そういうふうなことはチャレンジを若手にはさせていきたいと思っています。そのための訓練なり研修は行かせたいと思います。以上です。

【しろい梨の会】

今の言葉を聞いて、少し安心しましたけれども、自分も役所に勤めていた身で経費削減という、今の5番目のところに、市役所の仕事を見える化して事業の見直し改善を図る、行政のスリム化というのが上がっているのですけれども、職員を減らしていったら、結果は臨時職員がどんどん増えていて、仕事は減るわけではないから、それはやむを得ない部分があるのですけれども、肝心な仕事の継承というのはうまくいくのか。どこまで減らしていくのかという、その適正な組織のあり方というか、そういうところを見据えて、職員でなければやれない部分もあると思うのです。それをきちっと先輩か

ら後輩に伝えていくような話もあるでしょうし、逆に大卒で優秀な職員がどんどん広域から入ってきていますから、逆に窓際のほうが邪魔かもしれません。

そういう現状もあって、市役所の仕事、全体的に活性化が不安に思うところもあるのですけれども。

ただ、この前、何かの手続きに行ったときに対応してくれた方が非常に丁寧で、それはよかったのですけれども、自分は書いている届け書とかは日本語で書いてあるからわかるし、用紙だけもらえばいいということで行ったのですけれども、多分出てこられた方は、臨時の方でしょうね。ちょっとお待ちくださいということで、担当がふさがっているということで、そういうことで実際出てこられて、紙だけもらって書けばいいからということですぐ書いたのですけれども。親切がゆえの自分たちで仕事をつくり出しているような部分もあるのかなど。相談も要らない人もいれば、相談が必要な人もいでしょうし、それを窓口で切り分けて省力化していくという細かい話なのですけれども、そういうところも工夫が要るのかなと思っています。

要は、臨時職員をあんまり増やしても、防波堤のように置いていても仕方がないので、正規職員をどう育てていくか。研修をされるということで、意識改革もされていくということで大いに期待をしておりますので、その点はよろしくお願いします。

あと小さい話で、いろいろな市民からの要望があって、個人的に市長への手紙とか担当課へメールを送ったりしているのですけれども、それ専門の窓口みたいなものを1個設けて、松戸市が、すぐやる課50年というのを最近言われておりますけれども、すぐやれないにしても、どういう順番づけでやりますよとか、そういう方向を示せるような全庁的な、各課でするのではなくて、一つ窓口を、ここに言えばいいというようないろいろな市民からの声を拾うというか。本来は先ほど言われたように、職員が表に出て、現場を見てやっていけばいいのでしょうけれども、数が減っている中では、市民が気づいたことを市民から情報を得て、そして順番づけて職員が出向くというやり方が、より効率的ではないかと思っておりますので、そういう窓口が一つ要るのではないかという、組織の話。

【市長】

わかりました。まず、組織は、今実際に広聴班というのがありますから、そこにいろいろな市民からのお手紙やいろいろな苦情、クレームが来ます。そこで振り分けして、そこでまとめて回答しています。動くのは個々ですけれども、一応情報を集めてきて発信をするところはあります。

あとは、職員をもっと多くするか少なくするか。私は経営者として見れば、本当は職員の立場ですから、職員がいたほうがいいです。正規職員がいたほうがいいです。ただ、役所を経営する中で、どうしても人件費、義務的経費というのは人件費の割合が高いですから、そこは少数精鋭でやっていくしかないと思っています。

だけれども、正規職員が何をすべきか、臨時職員は何をすべきか、さらには機械が何をすべきか、人間は何をすべきか、それを分けながらやっていければ、もっと効率が高まっていくと思います。もうこれ以上人を削ることは、私はできないと思います。

というのは、災害を見てください。どこの市町村でも、災害が起きたときに一番動くのが、地方自治体の職員です。今、自前で全部やり切れないから、毎回要請が来ます、応援要請。今回も、台風15号、19号でも要請が来ました。それは自前でできないからです。余力のある被害がないところが職員を送っています。一齐に全部災害が起きた時は、本当は応援なんかできないはずですよ。自前である程度一定の対応をしなければいけないのですけれども、そこは今、全国的に地方自治体の職員を減らした結果だと思っていますので、ですから私は、これ以上職員というのは減らすことは難しいだろうと思っていて、今言ったように職員が何をすべきか、スキルアップをしながら意識改革をしながら、やるべきこと、あとは皆さんにお願いすること、企業にお願いすること、引き続き、職員が行うことを分けていきたいと思っています。

【しろい梨の会】

新しい市長になられて、改めて今までの市政といいますか、それで私が一番感じていたのは、財政についての明確な何が健全なのか不健全なのか、どこが問題なのかというのが、非常にわかりにくい行政だったと思うのです。ここ一、二年、多分去年ですか、4月からですか、会計上の複式簿記を具体化したと思うのですが、笠井市長になって、会計のご専門だとは思いますが、それによる従来の会計学上の違い、また問題点、そういうのはどのように感じられますか。

【市長】

難しいですね。借金が多いということは一つあります。200億円の年間予算に対して、今、地方債が200億円あります、貯金が20億円、一般会計が200億円で、自主財源は100億円しかありません。借金は200億円ありますから、このお金を借りる体質を少し直していかなければいけないと思っています。そのことが、普段いろいろなところにお金を使うところが滞っている部分がありますので、まずこの体質を直していくしかない。では、何が問題かといったら、構造上の問題があって、ニュータウンで一気に物をつくってきたので、その部分の入れ替えもちょうど一緒になっているのです。本来は計画的に整備をしていくなり、直していけばいいのですけれども、これらが集中していますので、例えば今回の市役所と給食センターみたいに一気に大きな事業をそこで行うと、その借金を返すのが大変なのです。これからは、さっき言ったように、お金を平準化してなるべく施設を長くもたせて、そして修理も計画的にやっていくことが、その体質を変えることだと思います。

【しろい梨の会】

その会計上のシステムを変えたというメリットは、かなり明確になっていますか。

【市長】

あります。資産などのことも少しわかりましたので。ですから若干、今までは1年の単位ですから、

ある間は全部使ってしまうと、悪い話ですよ。そういうふうになりますから、あんまり借金のことは意識しなかったのですけれども、資産と償却資産なんかもわかりますので、そういう面では変わってきたと思います。

【しろい梨の会】

そういう意味においても、健全だと理解していいわけですか。

【市長】

数字上は健全です。さっき言ったように、1, 718ある中で133位ですから。

【しろい梨の会】

それはでも、相対的なものですね。

【市長】

そうです。だけれども、健全というのは何かというと、法律上の財政指標というのがあるのですけれども、その中でも全然悪くないですから、私は、健全だと思っています。

【しろい梨の会】

単純な質問ですけれども、庁舎の改修に伴って、今もちょっと話がありましたけれども関連するのかなと思うのですけれども、ファイリングシステムに今度、公文書を管理するようになったそうですね。そこで私も議員のときに、1回、市長が課長だったころかな、公文書管理について質問したことがあるのですけれども、公文書管理の現状はどうなっていますか。要するに、新しく規則やら条例をつくったのですか。そして、うまくいっているのですか。

【市長】

また、議会の答弁と一緒になるのですが、ファイリングシステムは導入しました。それで、文書の管理、探す時間が早くなりました。あとは、文書管理条例の話ですね。今は規定です。規定しかありません。これは議会でも言われましたけれども、条例化するという話があります。ただ、これは今後、市民参加を進めていく中で、情報公開というのが出てこなくてはいけない話ですから、そういう中で考えていかなければいけないと思っています。あのときは課長という立場がありましたし、今度は市長という立場が少し変わってくるのもありますし、市民参加を進めるために、情報公開をどうやっていくのかということもありますので。ただ、これは条例をつくったから、すぐ身になるかという、違うと思うのです。それは市民参加条例を見てください。平成16年につくっていて、まだまだああいふ評価がありますので、それを運用する職員が、そこまで意欲、意識がないと、条例をつくっても結

局逃げ道になってしまいますので、そこは気をつけなくてははいけない。

【しろい梨の会】

もう一つ、2問までいいですか。これも現職の課長時代に多少は絡むのだけれども、公文書をどう残すかというのは非常に、今、規定ですよ。規定は簡単な話、内部で勝手につくれるやつですから。専決処分の際に、結局のところは職員がノータッチで逃げ切った、裁判も結局職員は関係なかった、市長が勝手にやったので有罪になって終わりましたけれども、その辺も過去のことも含めて、公文書の管理というのは非常に重要なこれからの課題だと思うのです。この辺について、市長の、先程と重複するお答えになるのかもしれないけれども、いかがでしょうか。

【市長】

先程と同じになりますが、記録というのは残す必要がある。記録をどこまで整備して残すかというのは、きちんとしたルールがなければいけないと思います。そのルールがないと、個人の判断に委ねてしまう部分がありますので、ですからそこも含めて、職員の育成も含めて考えていきたいと思っています。

【しろい梨の会】

関連なのですが、いいですか。

ファイリングシステムができて、情報公開コーナーがあるではないですか。文書目録が非常にわかりづらい。だから何のための公開コーナーなのかなというか、どういうファイルがあって、それにどういう資料があるのかというのがわからないと、公開請求もできないから、そこはぜひ改善をしてほしいなという、細かいことなのですが。

あと1つだけ、さっきこのシティプロモーションのポスターがいかがかということだけ言いましたけれども、私がもし例えば案をつくらせてもらうとすると、住んで安心、暮らして便利、市民が主役のコンパクトシティ白井ぐらいの雰囲気なのです。

住んで安心というのは、さっき言ったような地震と水害とかそういうのに強い。暮らして便利というのは、買い物だとか通勤だとか通学だとか鉄道だとか、もろもろ、それに含めれば、緑が結構あるとか、そういうことなんかも含めて。変にだじゃれで自虐的に行く路線もあるのかもわからないけれども、ストレートにズバッと本当に白井のいいところが打ち出せるようにしてもらったらいいのではないかなと思っています。

【市長】

今の意見は参考にしておきます。ただ、ターゲットを誰に絞るかによって、キャッチコピーは変わらと思うのです。今回は若い人たちをターゲットにしましたので、そういうキャッチコピーを使わせ

てもらいましたけれども、これからは、誰が白井に住んでもらいたいのか、それに合わせた、そういう人たちに合ったキャッチコピーを考えていきます。

あと、もう1個ありましたね、ファイリングの件は、今日帰った後に、関係各課に指示をします。

【しろい梨の会】

お礼とお願いをするという。最近これを配っていただきました。幸せな老後を生きるという終活ノートです。エンディングノートというやつ、みんな持っていますか、これ。今は盛んに高齢者福祉課で説明会を持っていただいて、17日にうちの自治会で、35名かな、集まって説明会を開いていただきました。高齢者福祉課、地域包括支援センターかな、大変優秀な人でいろいろな勉強をされて、説明会も3時間ぐらいやっていただきました。

ただ、これはお願いなのですが、これからは、単に高齢者だけの問題ではないです。さっき市長が説明されたいろいろな項目が全部絡んでくるのです。若い人も絡んでくるのです、これ。そういう問題もあるので、高齢者福祉課だけではなくて、いろいろな説明会をやられているので、いろいろな安心安全とか生活にかかるもの、市民のいろいろな悩みがほとんどここに出てくるのです。

そういった面で相談体制をきちっとやってもらうのと、もう一つは、これは福祉部だけではなくて、市全体で健康づくりも安心安全、全部絡んでくるわけです。そういったこれから出てくるいろいろな問題を各部門で吸収していただいて、安心安全のまちづくりに役立てていただきたい。ぜひ、よろしく願いいたします。

【市長】

それは自分の仕事ですから。それが本当の自分の仕事ですから、いろいろな地域課題、まちの課題を見つけて、そして横断的に組織として対応していくというのが、それは私の責任の中でやるしかないと思います。

【しろい梨の会】

今、白井市の土地が、千葉県一評価が下がっていますね。この問題はどこにあるかということ、これだけ見ていると、結構、休耕田とか、畑で何もつくっていないとか、あるいは市街化調整区域というのが、そういう利用されていない土地が結構あるのです。それを今度どうやって活用するかというのは、白井市の課題と思っています。

人を増やすといっても、住むところがない。不動産屋に言わせると、白井の場合はもう開発土地がないから、つまり競争がないから地価が下がっている、そういうこと。

ところが現実を見ると、そういう農家の実態を見ると、私の隣に4軒梨農家があるのです。そのうちの3軒の方は、もう俺の代でやめたいと。とてもじゃない、やっていけないのだという方がいらっしやるのです。そういう農家の方の実情も踏まえた上で、そういう土地の活用をどうしていったらいい

いのか。乱開発という問題もありますから、今の条例で、2年前の条例で非常に開発、宅地化が厳しくなりましたね。その辺も含めて、もう1回見直する必要があるのではないかと申し上げます。

【市長】

土地利用については、マスタープランをつくっています。ハード面ではマスタープランでカバーしています。ソフト面、施策面は基本構想でカバーしていますから、これはリンクしていますので、ハードとソフトが一緒になっていないと、今言った乱開発とか無秩序になりますので、この辺は、基本構想については前期5年、後期5年、これにリンクしていますので、そういう問題というのは、条例をつくって終わりではないと思うのです。当然、土地の農家の後継者の問題もありますし、ただ、また前みたいに戻せばいいかということではないと思うのです。そこは十分、社会情勢なり、計画との整合性をしながら柔軟に考えていきたいと思っています。

【しろい梨の会】

ちょっとショックだったのですけれども、消費税が上がったために北総線の運賃も上がりました。それでテレビコマーシャルで、京浜急行は、品川、羽田空港が300円になった、下げているのです、物すごい勢いで。何%、410円が300円。この衝撃、こっちに住んでいる人に対してのすごいインパクトがあって、ちょっとショックな。だから北総線についても、企業努力と市長の力で、ぜひ下げる方向をどういうふうに見つけていくのか、よろしくそこはお願いしたいと思います。

【市長】

そこは、即答はできません。今まで何十年間やってきた話なのです。ただ、おっしゃったようにテレビを見ました。だから、さっき言った企業努力、繰越損失があと何年かでなくなりますので、3年ぐらい、その辺も含めて、周りとは歩調を合わせてやっていきたいと思っています。

【しろい梨の会】

最後ですけれども、広報の関係とかで、横文字が割と使われているのです。ようわからないのです。できれば日本語で、わかりやすい日本語で広報してほしい。昨日来た回覧板で、危機管理課が、シェイク何とかって、要は地震が来たら、机の下にもぐって避難しろというふうに、何だこりゃって思っ。何かにつけて、そういう表現が横文字で、それから、どこか課の名前も、そういう管財みたいなところが。

【市長】

あります。公共施設マネジメント課があります。

【しろい梨の会】

そういうのも日本語で置きかえて、わかりやすくすればいいんじゃないのかなという。できるだけ日本語で。

【市長】

今言われたことは、すぐできることもありますから、庁内LANで職員に書いて、このように字を大きくする、わかりやすく表現する、難しければ説明を入れると、そういうことを職員に伝えます。

【市長】

本当に今日はどうもありがとうございました。これに懲りずによろしくお願いします。

— 以 上 —